



施設のご紹介「金ヶ崎エリアの施設」

北陸新幹線開業記念イベント

ふくい伝統行事「盆行事と小浜市加斗の精霊船」

第27回風花随筆文学賞

第34回福井県高等学校総合文化祭

女性団体との共催事業

施設の
ご紹介

金ヶ崎エリアの施設

敦賀市



令和6年3月16日に北陸新幹線が敦賀まで延伸開業し、敦賀は新幹線の通る街となりました。東京、京都・大阪、名古屋といった大都市への始発駅であり終着駅という、他に類を見ない交通の結節点となりました。開業後は関東から初めて敦賀にいらっしゃる方や、関西や東海地方のリピーターの方が多く敦賀を訪れ、賑わいを見せています。

敦賀では、古くから交通の要衝として、北前船の寄港地や京の都へ物資を運ぶ中継地点の中でも独自の文化が育まれてきました。明治期には日本海側で初めて鉄道が通り、東京から、敦賀を経由してロシアやヨーロッパへ繋がる国際都市として繁栄しました。金ヶ崎エリアには当時の敦賀港の様子を今に伝える特徴的な施設が多くあります。

人道の港 敦賀ムゼウム

敦賀港は、1920年代にはロシア革命後の内乱等によってシベリアで家族を失ったポーランド孤児が、1940年代には杉原千畝氏が「命のビザ」を携えたユダヤ難民が上陸した日本で唯一の港です。上陸地点付近に建つ人道の港 敦賀ムゼウムは、敦賀港駅舎など往時の建物4棟を当時の建物が建っていた場所に復元し、史実のみならず、当時の敦賀市民の証言やエピソードを、映像や資料を組み合わせた幅広い世代の方々に分かりやすく紹介している資料館です。

CONTENTS 目次 56

- 施設のご紹介「金ヶ崎エリアの施設」…… 2～3
- 北陸新幹線開業記念イベント…… 4
- ふくい伝統行事
- 「盆行事と小浜市加斗の精霊船」…… 5～6
- 第27回風花随筆文学賞…… 7
- 第34回福井県高等学校総合文化祭…… 8～9
- 女性団体との共催事業…… 10
- 情報ファイル…… 11



公益財団法人げんでんふれあい福井財団は、福井県の文化振興とふれあいとゆとりのある地域づくりに寄与することを目的に、県民の皆様との絆を大切にしたい広報誌を目指します。

表紙の説明『盆行事と小浜市加斗の精霊船』

正月と盆は日本人にとって半期ごとの大切な「魂祭り」とされています。『仏説盂蘭盆経』に基づく盂蘭盆会が宮中の年中行事として取り入れられたことから、もっぱら仏教行事として民衆の間にも広がり定着して、お盆が仏祭りの様相を強め、各地で施餓鬼会（施食会）がとりおこなわれています。各家に丁重に迎えられたご先祖や仏さんは、15日か16日の夕刻にふたたびあの世へと送り返されます。若狭湾の沿岸では藁舟を作って「精霊船」を流しますが、全国でただ一か所、小浜市加斗では集落下の浜辺で砂を盛り上げて船形を作り、線香と蠟燭を立て、三が日のお供えとお花を飾り、鉦を打って「お精霊さん」を懇ろに送ります。



(写真撮影：吉田俊雄さん)

また、県内外の学校から訪問地として選ばれるなど、教育旅行の旅先としても注目されているほか、ポーランド孤児やユダヤ難民の子孫及び関係者の方々が、自らのルーツを辿って上陸地に建つムゼウムを訪れるなど、海外からも多くのお客様にお越しいただいています。定期的に常設展示等に関連したテーマの企画展を開催するなどイベントも充実しています。



ランプ小屋

旧敦賀港駅ランプ小屋は、明治15年（1882）11月の竣工当時、「金ヶ崎停車場ランプ小舎」と呼ばれていた、現存する最古の鉄道建築物の一つです。このランプ小屋は、鉄道運航に必要なランプと燃料を保管するための施設で、竣工時はランプ小屋としては京都駅、横浜駅のものに次ぐ、全国でも3番目の大きさでした。電灯が普及する前は、駅の信号灯、駅員の手提げ灯、客車の室内灯、蒸気機関車の前灯、尾灯など、多くの灯油のランプが使われており、日本海からの物資を鉄道に積む始発駅であった金ヶ崎停車場では、その後の物流増加を見越して、大都市並みの大きさの施設になったと考えられます。平成26年に日本貨物鉄道株式会社より敦賀市へ建物の寄附を受け、瓦葺きへの復元や、目地補修などの修復復元工事を行い、平成27年から一般公開を開始しました。建物内には2つの部屋があり、ランプ小屋に関するパネル展示と、鉄道開業当時のランプ小屋内部を復元した展示を行っています。



赤レンガ倉庫

敦賀港の東側に2棟並んで建っている敦賀赤レンガ倉庫は、外国人技師が設計し、ニューヨークスタンダード石油会社によって明治38年（1905）に建てられた特徴的な建物です。石油貯蔵庫や軍の備品倉庫、昆布の貯蔵庫として使われ、平成27年にノスタルジーを感じられる観光施設として生まれ変わりました。

北側の倉庫はジオラマ館としており、敦賀の明治後期から昭和初期のまちなみを8分の1スケールで再現したジオラマは日本最大級の大きさで迫力です。南側はレストラン館として、カフェや海鮮丼、イタリアンなど、敦賀の魅力的な食を提供しており、歴史と文化と食を楽しむことができる観光客にも人気のスポットです。

（敦賀市観光誘客課）



北陸新幹線開業記念イベント

北陸新幹線の敦賀までの延伸開業を記念して、北陸新幹線に関連して地域文化の振興につながる事業に対して特に手厚く支援しています。

福井市文化協会 美術作品展

北陸新幹線開業記念イベント 福井市文化協会 美術作品展が、令和6年3月16日(土)から20日(水)に福井市アオサキ階アトリウムで開催されました。このイベントは、3月16日の北陸新幹線の県内延伸開業を記念して、福井市文化協会が開催したものです。

同協会美術部門には、書道、絵画、水墨画、工芸、盆栽と幅広いジャンルの団体が加盟しており、各々の団体に所属する会員の日頃の研鑽の成果が新幹線開業記念作品として表現されていました。

福井駅東口に程近い会場で北陸新幹線の開業日を初日として開催された作品展だけに、福井を訪れた観光客や福井駅周辺を訪れた県民など多くの方々が、気軽に立ち寄り、芸術文化に触れる絶好の機会となりました。



横山幸雄ピアノ・リサイタル

横山幸雄ピアノ・リサイタルが、令和6年4月3日(水)に敦賀市民文化センターで開催されました。このリサイタルは、本年3月16日に北陸新幹線が敦賀まで延伸開業したことを記念して敦賀商工会議所が開催したものです。

敦賀市は20世紀前半にポーランド孤児を救出したという史実に深いつながりがあり、横山幸雄さんは同国出身の作曲家シヨパンの演奏で世界的に著名なピアニストです。

リサイタルでは、「華麗なる大円舞曲」を皮切りに、「ノクターン」や「ポロネーズ」など馴染み深い曲を含め、全12曲の演奏が行われました。市民や学生、約1000名が来場し、繊細で力強い鍵盤さばきに惜しめない拍手を送っていました。

演奏会の合間には、横山幸雄さん、米澤敦賀市長、中村福井



県副知事及び奥井敦賀商工会議所会頭による鼎談が行われ、人道の港敦賀の歴史や、シヨパンの祖国ポーランドへの想いやエピソードなどについて話し合われていました。

草月会福井県支部いけばな展

草月会福井県支部いけばな展「花との出会いがやきとどけ」が、令和6年4月27日(土)から28日(日)に越前市の道の駅越前たけふで開催されました。このいけばな展は、北陸新幹線の県内延伸開業を記念して、草月会福井県支部が開催したものです。

「場にいける」という草月流が得意とする手法を最大限に活かし、日本の伝統文化の一役を担う「いけばな」をもって北陸新幹線県内延伸開業を祝う『祝い花』、北陸新幹線での来県者を迎える『迎え花』が展示されました。屋内外の3会場に50点。野外の交流広場には、竹60本を用いて、高さ8m、全長16mの竹のインスタレーション『昇り龍』が支部会員



総勢100名により2日をかけて仕上げられました。日野山を借景に力強さとしなやかさを備えた龍に、来場者は皆驚嘆していました。会期中は天候に恵まれ約2500人の来場者で大盛況でした。

盆行事と小浜市加斗の精霊船

小浜市

正月とお盆

旧暦ではもっぱら7月に行われていた盆行事は、明治維新前に使用していた旧暦（太陰太陽暦）が明治5年に新暦（太陽暦）に改正され、全国的に現在とはひと月遅れの8月15日を中心にした月遅れのお盆をとりおこなっているところが多いとされています。地方によっては「釜蓋朔日」や「七日盆」にはじまり、23日、24日の地藏盆をもって盆の終わりとするとところもあります。

毎年めぐり来るお盆は、現在ではすっかり仏教化されて、正月とともに日本の奥ゆかしい年中行事として大切な節目になっています。本来は、仏教伝来以前の古代においては、日本人の

肝要な魂祭りであり、今なお関東以北に見られる正月の「ミタマノメシ」も先祖に供えられるように、先祖祭り（祖霊信仰）の形態を今に伝えています。富山県の一部では、かつて「正月盆」という所もありました。正月とお盆はちょうど一年の半期に当たり、民間では正月行事が稲作の、盆行事が畑作の収穫儀礼ともなっています。

歴史上の盆行事

宮中の年中行事としては、『仏説盂蘭盆經』に基づく盂蘭盆会が斉明3年（657）に催されており、わが国のお盆の始まりと言われています。仏陀の弟子である目連尊者が、7月15日の夏安居の最後の日に、僧自恣の日の罪過を懺悔し、衆僧に百味の飲食を与えて餓鬼道に落ちた母親の苦しみを救ったとされています。菩提寺の施餓鬼会などで必ずと言っていいほど、お説教のなかでよくふれられる仏教説話です。

魂祭りとしてのお盆

とはいえ、仏説以前のわが国の魂祭りの習俗を想起させる、有名な吉田兼好の『徒然草』の次の一節を読んでもみましょう。「なき人の来る夜として、魂まつるわざは、この頃、都にはなき

つとなっています。儀式中、住職がお供えの御仏飯を一握り外へ投げるのは「餓鬼施し」にほかなりません。十分供養されない死霊はやがて悪霊や御霊、怨霊となって人々を苦しめ苛むとされています。



高浜町上瀬の精霊棚の
餓鬼に供物をほどこし祈る
写真撮影：金田久璋さん



高浜町山中の精霊棚に
お供を並べる
写真撮影：金田久璋さん

魂送り

小浜市加斗の砂の精霊船

お盆の三日間、充分な供養を受けた精霊は、ふたたびあの世へと戻っていきます。各家の盆棚に供えられた「お精霊さん」と呼ばれた供物が、いわば祖霊の依代（よりしろ）となり、銘々のお墓や川、海へと、すなわちあの世（他界）へと送られます。仏教化以降もっぱら西方浄土があの世とされますが、ところによつては近くの里山へ送るところも



下加斗の集落全景 写真撮影：吉田俊雄さん

見られます。これまで美浜町菅浜や和田の精霊船を取り上げてきましたが、今号では小浜市下加斗の盆送りを紹介しましょう。（上加斗の方も各自実施）

小浜市下加斗は市の西部、小浜線、国道27号線と小浜湾との間のどかな田園地帯にあり、世帯数は67戸、人口165人の農村。宗旨は臨済宗松原寺。暖地性植物群落がある蒼島が袖崎と片江鼻のあいだの目の前にあり、『向若録』に「長松烈立シ緑陰八繁茂シ行旅ノ行キ還リ者ハ必ス休息シ目ヲ怡シマセル」とある「加斗の松原」が集落下の浜辺の緑陰地帯を形成しています。

8月15日の夕刻、飯盛川右岸のこの浜辺で当地の盆送り、精霊送りが行われます。福井県内の精霊船流しは、西の高浜町から東の福井市まで、集落ごと、若しくは各家ごとに行われてきましたが、当地の事例はおそらく全国で唯一、稀有な習俗と思われる。なぜなら、個々の家の精霊船を磯辺の砂を盛り上げて形作り、線香、蝋燭を灯し、

鉦を打ちながら、盆の供物を置いて拝礼し、お精霊さんをあの世へと送ります。言わば半畳ほどの砂の精霊船なのです。（現在は縮小）海岸道の新設で渚が狭くなり、更に当地も新型コロナ禍のありを受け、このきわめて奥ゆかしい習俗も個々の家によっては中断されていますが、豊饒な若狭の民俗の再発見のためにぜひとも復活して頂きたいものです。



小浜市下加斗の精霊船（1990年頃） 写真撮影：北川幸三さん



追記 取材時に、実際精霊船を作られているのは、小浜市上加斗の土井幸徳・綾子ご夫妻です。ご協力ありがとうございました。

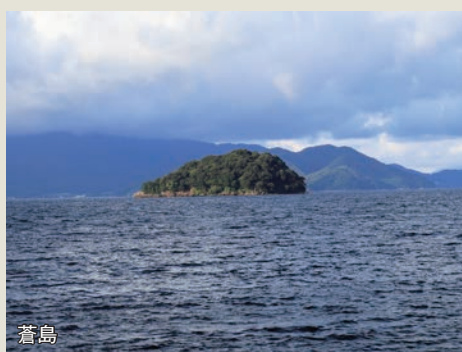
（日本地名研究所

所長 金田久璋）

参考…田中宣一・宮田登編

『年中行事事典』

三省堂 1999年



蒼島



写真撮影：吉田俊雄さん

第27回 風花随筆文学賞

かざはな

第27回風花随筆文学賞（同賞実行委員会主催、げんでんふれあい福井財団特別協賛）の授賞式が、令和6年3月3日（日）に福井県立図書館多目的ホールで行われました。この文学賞は、福井県出身の芥川賞作家津村節子さんの随筆「風花の街から」にちなんで平成9年度に創設された賞で、毎年、国内外から多くの作品が寄せられています。当財団では、文化・芸術を愛する県民風土を高める顕彰事業として特別協賛し、「げんでんふれあい福井財団賞」を贈呈しています。今回は一般の部で鈴木 衛さん、高校生の部で吉村 悠里さんのお二人が、「げんでんふれあい福井財団賞」を受賞されました。

一般の部（応募作品1125編）

- ▽《最優秀賞》山田彩也夏（福井県）「ころを育てる時間」
- ▽《優秀賞・げんでんふれあい福井財団賞》鈴木 衛（静岡県）「おいしいね」
- ▽《優秀賞・福井新聞社賞》土居清美（大阪府）「社員旅行」
- ▽《優秀賞・福井仁愛学園賞》杉山初美（山口県）「ウルトラマンの青いリョック」
- ▽《優秀賞・U30賞》時田藍子（福岡県）「セミに出会った大学生」
- ▽《優秀賞・実行委員会賞》山田莉星（東京都）「光の標」

高校生の部（応募作品2690編）

- ▽《最優秀賞》福岡知子（福井県）「二日千秋」
- ▽《優秀賞・げんでんふれあい福井財団賞》吉村 悠里（福井県）「はんぶんこ」
- ▽《優秀賞・福井新聞社賞》政田鮎香（福井県）「博物館と赤いランドセル」
- ▽《優秀賞・福井仁愛学園賞》熊谷孝太（宮城県）「煙草」
- ▽《優秀賞・実行委員会賞》佐竹菜希（福井県）「除夜の鐘」
- ▽《優秀賞・実行委員会賞》森田蘭（静岡県）「夏風と戦争」
- ▽《佳作》福田萌々香（栃木県）「旅路」
- ▽《佳作》川原梨花（福井県）「サラブレッドとみる夢」
- ▽《佳作》仕子花夏（福井県）「きみのかばんには助け愛のしるし」
- ▽《佳作》中井美友（福井県）「いつてらっしゃいのタッチ」

▽《奨励賞》

- 和田 汰知、久保文音、沢波咲空、手塚結菜、山本彩瑚、飯星築、高原伶奈、松井郁美、木戸屋楓、飯塚陽菜、東山聡良（福井県）
- 堀山直浩（北海道）
- 平山 優姫（埼玉県）
- 鵜飼真唯花（東京都）
- 加藤礼野（岐阜県）
- 武智胡花（兵庫県）
- 早田 愛（鹿児島県）
- 田中 成奈、竹内理奈（静岡県）
- 野田 祐子（長崎県）

▽《学校賞》

- 足羽高等学校（福井県）
- 仁愛女子高等学校（福井県）

《げんでんふれあい福井財団賞》

一般の部

「おいしいね」



鈴木 衛 さん
(静岡県)

高校生の部

「はんぶんこ」



吉村 悠里 さん
(福井県)

※入賞作品は、「風花随筆文学賞」HP（福井県ふるさと文学館HP内）に掲載されています。
又、作品集をご希望の方は、実行委員会事務局（福井県ふるさと文学館内 ☎0776-33-8866）までお問い合わせ下さい。



受賞者、来賓、審査委員及び実行委員の皆さん

令和5年度 第34回 福井県高等学校総合文化祭

令和5年度第34回福井県高等学校総合文化祭（げんでんふれあい福井財団協賛）が、令和5年6月から令和6年2月にかけて県内各地で開催されました。第34回のテーマは「縁々繋いでいく文化の心」。

総勢約5300人の生徒が、28部門でコンクールや各種大会に参加し、日頃の練習及び研究の成果を披露しました。

今回の大会は、令和6年11月に開催が予定されている第44回近畿総合文化祭福井大会の予行として、大会運営に配慮した開催となりました。

◆国語部会（304名が応募）

9月11日に鯖江高校でコンクールが開催されました。随想、小説・文芸評論、詩、短歌、俳句の部が開催され、審査の結果、計51作品が入選作品に選ばれました。最優秀賞及び優秀賞を掲載した作品集が作成され、関係高校に配付されました。

◆理科部会（65名が参加）

10月31日に坂井市の福井県教育総合研究所で開催され



ました。計10テーマの発表・報告があり、5テーマが最優秀賞、優秀賞、奨励賞の各賞を受賞しました。うち3チームが第67回日本科学賞に出場し、藤島高校SSH研究クラブの作品が入選1等を受賞しました。

◆音楽・合唱・器楽管弦楽部会（102名が参加）

11月15日にハーモニーホールふくいで開催されました。音楽部門では県外コンクールで上位入賞2名の演奏が、合唱部門では6校（大野、羽水、藤島、高志、仁愛女子、武生）及び近畿総合文化祭出場校の演奏が、器楽管弦楽部門では4校（藤島、高志中高、丹生、武生）及び近畿総合文化祭出場校の演奏が繰り広げられました。



◆吹奏楽部会（800名が参加）
11月17日にハーモニーホールふくいで開催されました。単独校11団体、合同4団体、マーチング1団体の力のこもった演奏が行われました。



◆マーチングバンド・バントワリング部会（100名が参加）

10月9日に福井市体育館で開催されました。参加校は、福井工大附属福井高校（バントワリング）、仁愛女子高校（マーチングバンド）、敦賀高校（マーチングバンド）の3校でした。

◆英語部会（621名が参加）

9月23日に県内各高校でコンテストが開催されました。3部門で、学年毎に、計16名が最優秀賞、優秀賞を受賞しました。



◆家庭部門（73名が参加）

11月20日に坂井高校で開催されました。高志高校家庭クラブから「食品ロス削減 地産地消を目指して」の取り組みから「一歩ずつ」の研究発表の後、分科会「モッコ刺しの講義・実習」が開催されました。

◆農業部会（150名が参加）

7月21日に福井農林高校で開催されました。農業鑑定競技会では、専門の学習成果が6分野で各40問出題の正答数で競われました。意見発表会及びプロジェクト発表会では、将来の目標が現在の取組みと共に語られ、次の課題を見つけ継続している様子が伺われました。上位入賞者は北信越大会ブロック大会及び全国大会に出場しました。

◆工業部会（425名が参加）

令和6年2月8日に科学技術高校で開催されました。武生商工、奥越明成、坂井、敦賀工業、科学技術、若狭東の工業学科の生徒の発表が行われ、敦賀工業高校が最優秀賞を、科学技術高校が優秀賞を、坂井高校が優良賞を受賞しました。



◆学校図書館部会（4834名が応募）

10月19日に科学技術高校で審査会が行われました。最優秀賞、優秀賞、優良賞の各賞に26作品が選ばれ、令和6年1月に行われた全国コンクールにおいて、若狭高校の生徒の作品がサントリー奨励賞を受賞しました。

◆演劇部会（103名が参加）

9月16日から18日に福井駅東口アオッサで開催されました。8校（羽水、藤島、仁愛女子、武生、北陸、金津、啓新、福井商業）が参加し、迫真の演技が披露されました。金賞を受賞した北陸高校は第76回中部日本高校演劇大会に出場し、奨励賞を受賞しました。

◆日本音楽部会（82名が参加）

11月9日に鯖江市文化センターで開催されました。9校が参加し、金賞を受賞した藤島高校が、令和6年7月に

開催された第48回全国高校総合文化祭日本音楽部門に出場しました。

◆放送部会（99名が参加）

11月10日から11日に坂井市のみにく未来ホールで開催されました。アナウンス、朗読、オーディオメッセージ、ビデオメッセージ、CMの各部門が実施され、各部門において計18名、13作品が入賞しました。

◆囲碁部会（8名が参加）

10月22日に福井市の福井棋院会館で開催されました。藤島高校及び福井南高校の生徒8名が、女子団体、個人戦A級、個人戦B級に分かれて対局し、女子団体及び個人戦B級では藤島高校が、個人戦A級では福井南の生徒が優勝しました。

◆国際教育研究部会（30名が参加）

11月2日に福井県国際交流会館で開催されました。5校（高志、足羽、坂井、福井商業、武生東）10グループの発表が行われました。今回は、発表者に加えて高校生や外部からの聴講者も参加し、活気ある発表会となりました。福井商業高校の発表「高校日米比較」が最優秀賞を受賞しました。

◆将棋部会（30名が参加）

11月11日に福井新聞社 風の森ホールで開催されました。男子個人戦A級、男子個人戦B級、男子個人戦C級、女子個人戦が実施され、優勝した生徒は令和6年1月に開催された全国大会に出場しました。

◆小倉百人一首かるた部会（35名が参加）

9月24日に芦原温泉美松で開催されました。B1級、B2級、C級、D級、E1級、E2級に分かれて個人戦が行

われ、成績優秀者は、11月18日から19日に開催された第33回北信越高等学校かるた選手権大会に出場しました。

◆新聞部会（15名が参加）

11月11日に鯖江市嚮陽会館で開催されました。各校新聞部の交流を目的に3つの活動班に分かれ、鯖江市内の取材活動を行い交流新聞を完成させました。

◆郷土芸能部会（42名が参加）

11月9日に坂井市のハートピア春江で開催されました。3校（勝山、北陸、福井農林）が参加し、課題曲及び自由曲を演奏し、日ごろの鍛錬の成果を競い合いました。審査の結果、福井農林高校が第48回全国高等学校総合文化祭に出場校に決定しました。

◆文芸部会（30名が参加）

11月11日に坂井高校で開催されました。鹿児島で開催された第47回全国高等学校総合文化祭の参加者報告会の後、部門別研修会（散文、詩、短歌、俳句）が行われ、講師による講評や生徒同士の交流が行われました。

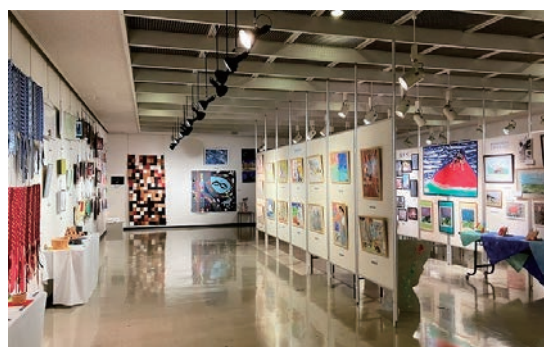
◆弁論部門（6名が参加）

令和6年1月27日に若狭高校で開催されました。2校（武生、若狭）が参加し、武生高校「SDGs14+」、若狭高校「対話が生み出すもの」がそれぞれ最優秀賞、優秀賞に選ばれ、令和6年7月から8月に開催された第48回全国高等学校総合文化祭弁論部門に出場しました。

◆美術・書道・写真展示、特別支援展示部会（400名が参加）

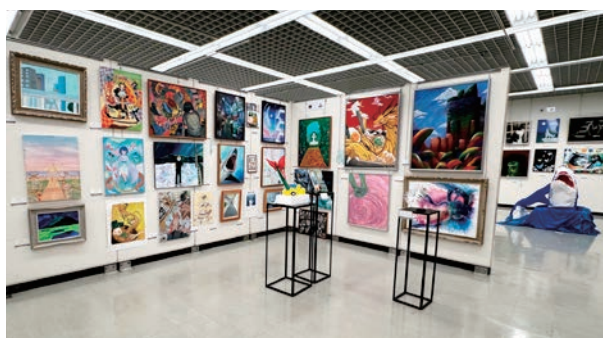
11月17日から19日に福井県立美術館、フエニックス・プラザ及び藤島高校で開催されました。出品数は、美術37

5点、書道164点、写真80点、特別支援338点で、専門家による講演会も開催されました。



◆定時制通信制部会（256名が参加）

10月14日に道守高校で開催されました。書道、美術・工芸・写真、被服・手芸の各部門の展示や、生活体験発表会及びワークショップ競技会が開催されました。



女性団体との共催事業

県内の女性団体と共催で文化講演会及びフェスティバルを開催しました。

文化講演会

令和6年4月27日（土）敦賀市北公民館において、敦賀市女性の会と共催で文化講演会を開催しました。講師は、医師の石原新菜さんで、「体の中からキレイになる温め生活」と題して講演頂き、同会会員47名が参加しました。

講師の石原さんは、小中学校2年生まではスイスに、その後は、高校卒業まで静岡県伊東市にお住まいで、大学は医学部に進まれ、現在は、父結實さんが開設しているクリニックで、主に漢方医学、自然療法、食事療法により、様々な病気の治療にあたっておられます。



講演会では、「女性は筋肉が少なく8割が低体温」「現代の生活習慣病、うつ増加には低体温が影響している」「体温が1度下がると免疫力が3割低下する」「①筋肉を増やす（ウォーキング、スクワット）、②腹巻をする（24時間365日）、③湯船につかる（41度で10〜15分）、④体を温める食事を摂る（生姜、味噌など）などの温活が大切」などお話し頂きました。

講師の実体験も交えた大変わかりやすいお話で、すぐに取り組める温活アイデアも含めた大変興味深いお話に、参加者はメモを取りながら熱心に聴きっていました。質疑応答も時間いっぱいまで行われ、健康に対する参加者の関心の強さが伺われ、大変有意義な講演会となりました。



ふくいきらめきフェスティバル2024

令和6年6月8日（土）大野市多田記念有終会館結とびあにおいて、（公財）ふくい女性財団と共催で「ふくいきらめきフェスティバル2024」を開催しました。

勝山高等学校日本文化部による和太鼓と三味線、笛演奏のオープニング後、福井県男女共同参画社会づくり功労者表彰が行われ、2名、2団体の長年の功労が讃えられました。

特別鼎談では、映画「おしよりん」原作者の藤岡陽子さん、映画「おしよりん」脚本家で越前市出身の関えり香さん、フリーアナウンサーの井上愛梨さんが登壇し、「映画『おしよりん』に見る女性の生き方とこれからのふくいの女性像」をテーマに、明治に生きた福井の女性と現代の女性との比較や、これからの女性の生き方などについて、熱いトークが繰り広げられました。参加者は、それぞれの分野で活躍する登壇者3名のリアルな話にじっと聴き入っていました。鼎談終了後には活発な質疑応答も行われ、これ

からの女性のあり方について、それぞれの思いを深める大変充実した機会となりました。

この日は、映画「おしよりん」の上映会や様々な講座やワークショップも開かれ、延べ700名の来場者たちは、有意義な一日を過ごしていました。



令和6年度 助成事業・協賛事業の日程

今後、開催される財団の助成事業・協賛事業で、一般の方が参加（鑑賞）できる主なものをご紹介します。

期日等は変更される場合がありますので、事前にご確認下さい。各事業に関するお問合せは、財団事務局（0770-21-0291）まで。

事業名／主催者名	場 所	期 日
「南正時 ふくいの鉄道写真」展 福井新聞社	越前市道の駅越前たけふ	令和6年 9月10日(火)～23日(月・休)
第76回煎茶各流大茶会 福井県茶道連盟 和光会	福井市福井新聞社	令和6年 9月28日(土)～29日(日)
JoyJoy 敦活フェスタ2024 市民活動ふえす実行委員会	敦賀市民文化センター、 きらめきみなと館	令和6年 10月6日(日)
ふくい県民総合文化祭 北陸新幹線福井開業イベント ハーモニー文化フェス (一社) 福井県文化協議会	福井市ハーモニーホールふくい	令和6年 10月12日(土)～13日(日)
福井ドドンと太鼓祭り 福井県太鼓連盟	越前市いまだて芸術館	令和6年 10月20日(日)
福井国際フェスティバル2024 (公財) 福井県国際交流協会	福井県国際交流会館	令和6年 10月20日(日)
REINAN 国際交流のつどい2024 (公財) 福井県国際交流協会	小浜市御食国若狭おばま食文化館	令和6年 10月27日(日)
敦賀気比高校OBOGアート展けひのわ 敦賀気比高校OBOGアート展けひのわ	敦賀市プラザ萬象	令和6年 10月31日(木)～11月3日(日)
第33回福井県市町文協選抜芸能祭 福井市文化協会	福井市フェニックス・プラザ	令和6年 11月4日(月・休)
ふくい県民総合文化祭 北陸新幹線福井開業イベント ハーモニー文化サブフェス (一社) 福井県文化協議会	福井市ハーモニーホールふくい	令和6年 11月9日(土)
若狭合唱協会第31 回合唱祭 男声合唱団 フロッグス	小浜市文化会館	令和6年 11月10日(日)
第41 回ナツメロ歌謡ショー 福井ナツメロ愛好会	坂井市ハートピア春江	令和6年 11月10日(日)
武生高校OB合唱団第16 回演奏会 武生高校OB合唱団	越前市文化センター	令和6年 12月1日(日)
第31 回若狭小浜第九演奏会 小浜第九実行委員会	小浜市文化会館	令和6年 12月8日(日)
映画「歳三の刀」「ピースラリー」上映 (一社) ユーラシア国際映画祭福井支部	坂井市丸岡城のまち コミュニティセンター	令和6年 12月14日(土)
パイプオルガンと歌うふくいの第九 2024 ふくい第九を歌う会	福井市ハーモニーホールふくい	令和6年 12月14日(土)
映画「歳三の刀」「ピースラリー」上映 (一社) ユーラシア国際映画祭福井支部	敦賀市人道の港敦賀ムゼウム	令和6年 12月15日(日)
第41 回ふるさとの花をいける水仙いけ花展 福井県華道協会	福井市福井新聞社	令和7年 1月17日(金)～20日(月)
第20 回まるおか子供歌舞伎 特別記念公演 まるおか子供歌舞伎を支える会	坂井市ハートピア春江	令和7年 1月19日(日)
全国で咲かせよう「大中恩」作品の花! inふくい ～混声合唱組曲「北廻船」～ 福井大学グリーンエコー合唱団OB会	福井市ハーモニーホールふくい	令和7年 1月19日(日)
ふくい県民総合文化祭 冬のマーチング・バトンふれあいフェス テバルビートセッション2025 冬のマーチング・バトンふれあいフェスティバルビートセッショ ン実行委員会	福井市ハーモニーホールふくい	令和7年 2月11日(火・祝)
越のルビーアーティストバンク登録オーディション (公財) 福井県文化振興事業団	福井市ハーモニーホールふくい	令和7年 2月23日(日)
バレア若狭ミュージカル バレア若狭	若狭町バレア若狭	令和7年 3月1日(土)
次世代音楽家応援コンサート 敦賀市民文化センター	敦賀市民文化センター	令和7年 3月16日(日)

第18回 げんでんふるさと大賞 2024写真コンテスト

出品無料

作品
募集

テーマ ふくいの「美」

- 部 門 高校生部門、一般部門の2部門
- 資 格 ①福井県に在住又は学校・勤務先が福井県内であること。
②写真の専門家（プロカメラマン）ではないこと。
③中学生以下の方はご応募頂けません。

- 作 品 応募点数は制限しません。但し、応募者本人が県内で2023年～2024年(令和5年以降)に撮影したもので、自作の未発表作品に限ります。
人物が写っている作品については必ず被写体本人に応募・使用許諾を取って下さい。
入賞作品の使用・著作権は、主催者側に帰属し、当財団のPR活動等に使用します。

- 作品の規格 カラー・モノクロで四ツ切、又は四ツ切ワイドの単写真のみとします。(デジタルプリントも同様)
デジタルカメラ(スマートフォン含む)の作品は、合成や特殊加工がないものに限りです。
ドローンを含む高所撮影機材のご使用は、大変危険ですのでご遠慮下さい。

- 締 切 令和6年10月4日(金)【必着】

- 発 表 令和6年11月6日(水)
(財団HP等で発表予定)

- 賞 金 等 ふるさと大賞1点(20万円)、ふるさと賞3点(高校生1点5万円、一般2点10万円)、優秀賞5点(高校生2点3万円、一般3点5万円)、協賛社賞3点(記念品)、入選30点(高校生5点、一般25点記念品)

- 審 査 員 水谷内健次さん(写真家)他7名

- 応 募 先 ①公益財団法人げんでんふれあい福井財団
(〒914-0051 敦賀市本町2-9-16)
②福井県カメラ商組合店及び県内フジカラー取扱店

- 応募方法 所定の申込用紙に必要事項を記入し、作品の裏に貼って、上記①②いずれかに提出して下さい。申込用紙は、上記①②に配置しているチラシの裏面にあります。チラシは財団HPからもダウンロードできます。

- 表 彰 式 令和6年11月17日(日) げんでんふれあいギャラリー
(敦賀市本町2-9-16)

- 主催・お問合せ先 公益財団法人げんでんふれあい福井財団
〒914-0051 敦賀市本町2-9-16
☎0770-21-0291(平日9:00～17:00)



▲詳細はコチラ

げんでんふれあい講演会入場者募集

入場無料

当財団では、NHK大相撲解説者の元小結舞の海秀平さんをお招きし、講演会を開催します。入場は無料です。たくさんの方々からの申し込みをお待ちしています。

- 日 時 令和6年10月26日(土) 13:30開場 14:00開始
- 講 師 舞の海 秀平さん(NHK大相撲解説者 元小結)
- テ ー マ 小よく大を制す「既成概念に負けない発想と創意工夫のヒント」
- 会 場 敦賀市きらめきみなと館小ホール(定員230名)
- 対 象 福井県内にお住まい又はお勤めの方
- お申込み方法 往復はがきの往信裏面に「①お名前、②郵便番号、③ご住所、④お電話番号、⑤講演会を何でお知りになったのか(チラシの場合は入手場所)」を、返信表面に郵便番号、ご住所、お名前を記載して、下記の申込み先までお送り下さい。お申込みは、往復はがき1枚につき、1名とさせていただきます。

- 受付期間 令和6年8月25日(日)～10月10日(木)【必着】

※尚、応募者数が定員(230名)に達した時点で締め切らせて頂きます。

お申込み先
お問合せ先

公益財団法人げんでんふれあい福井財団
〒914-0051 敦賀市本町2-9-16
☎0770-21-0291(平日9:00～17:00)



▲詳細はコチラ

